

古希を過ぎて趣味悠々!

●さまざまに活躍される先輩諸氏!

昨年暮れ、職場に高校の先輩・岡野浩さん(10期)がお見えになり、たくさんの資料をお持ちいただきました。



一つは「**かすかべ郷土かるた紀行**」と題されたA4判24ページの印刷物です【写真①】。「かすかべ郷土かるた」【写真②】は、春日部が有する自然や文化、歴史を大切にしながら伝承していくとともに、郷土愛を育てていくこ

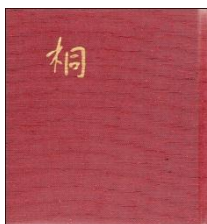
とを目的に作成されたものですが、かるたに読まれた祭りや景色などを実際に行かれて撮影された写真と一緒に解説が付けられています。例えば、

【あ】 赤沼の獅子舞を見て病せず

赤沼の獅子舞は、享保2年(1717年)7月に越谷市の下間久里の獅子舞が伝承され、現在では、赤沼民族文化保存会が継承しています。獅子舞には、無病息災、五穀豊穡等の願いが込められているものです。平成2年4月に市の無形民俗文化財に指定されました。23年10月16日、晴天に恵まれ多数の観衆のなかで古式ゆかしく挙行されました。

…と、幾つかはホームページ等からの資料ですが、臨場感溢れる写真が添えられとても分かりやすい資料となっています。

岡野さんは、春日部市第二児童センター「グーかすかべ」で、この「かすかべ郷土かるた」を題材として児童生徒達にパソコンの入力・操作指導をされています。



もう一つは、岡野さんの趣味のひとつである俳句の資料でした。古利根川辺遊歩道に設置されている11の「**俳句併設案内板写真**」をお持ちいただきました。岡野さんは、春日部市ふれあい大学校友会俳句クラブと古利根俳句会に参加されていますので、古利根俳句会の**500号記念誌「桐」**(古利根俳句会、榮水朝夫さん主宰)【写真④】も頂戴しました。

岡野さんの句は「**溶鑪**」とのタイトルで、「元日や仰ぎはじめの**溶鑪**」

「**青年僧身じろぎもせず寒の入り**」

など四季折々の20句が掲載されています。

岡野さん達の指導者である榮水朝夫先生は、春日部市内の俳句では第一人者で、**加藤楸邨**から教えを受けられた方です。お持ちいただいた例会の会報に「寒雷古利根句会報」との名がありました。楸邨の第一句集『寒雷』から取られたものようですね。『寒雷』について、次のような解説がありました。

＊

◆「現代俳枕」—埼玉県春日部市

小学校2年の春から春日部市に住んでいる。都心に通うには多少不便に思っていたこの地に特別な感慨を持つようになったのは俳句を始めてからである。

古利根の浮葉のみだれおもふべし 加藤楸邨

加藤楸邨は昭和4年から12年までこの地で教鞭を執っている。そして月2回同地に診療に来ていた水原秋桜子と出会うのである。春日部(旧粕壁)は楸邨と秋桜子との邂逅の場所であり、楸邨が初めて俳句と出合った思い出の地でもある。

楸邨の第一句集『寒雷』には「古利根抄」という章があるが、私はその古利根川を眼下に見下ろす中学校で楸邨の句に初めて出合った。

春日部は市内を旧日光街道が通っている。芭蕉が「奥の細道」の第一夜を過ごしたという説もある小淵観音も、この街道沿いにある。

小淵山観音院は、鎌倉時代中頃の建立といわれる古刹であり、市内に残る唯一の本山派修験の寺である。ここには秘蔵の円空仏が7体あり、毎年5月初旬には無料で一般公開されている。

くすぐつたいぞ円空仏に子猫の手 楸邨

楸邨もよくこの小淵観音院を尋ねていたという。楸邨が腰をおろして岩波文庫を読んだという大銀杏は、いま青々とした葉を繁らせている。

また市内には、推定樹齢1200年の特別天然記念物の藤がある。その花房はたおやかで美しく、長いのは花房が1メートルともなり、ちょうどいまの季節、多くの人が藤を見に訪れるのである。

遠つ世へゆきたし睡し藤の屋 中村苑子

春日部は句材も多く俳句との縁も深い土地であるが、私自身は、じつのところ、この土地を詠んだ句は少ない。ふるさとを恋い詠うのは、ほんとうの意味で、ふるさとを遠く離れてからかもしれない。

一日の終はり水鳥はなやかに(古利根川畔にて) 聡子 (『毎日新聞』2001年5月6日掲載)

【浦川聡子 俳句の世界へ】より引用

＊

元気に活動される先輩達の姿を見習わなくては!